

令和 2 年度刊行 埋蔵文化財発掘調査報告書 要約

金沢市文化財紀要 3 2 8 『金沢城下町遺跡（袋町 2 番地点）』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（袋町 2 番地点）	城下町	江戸	土坑、溝、石列	陶磁器類、土器、金属製品、木製品	
要 約					
<p>宿泊施設建設に先立ち令和元年度に金沢市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した金沢城下町遺跡（袋町 2 番地点）の発掘調査報告書。</p> <p>本遺跡は西内惣構の南側にある町屋跡の遺跡である。調査区は A 区・B 区の 2 地区に分かれ、A 区では計 12 基の土坑や小穴を検出した。焼土や炭が多く含まれる土坑が目立ち、これらは火災で焼失した不要品を廃棄したゴミ穴と見られる。B 区からは計 15 基の土坑や溝、石列を検出した。西内惣構と町屋の境目に当たり、当初は土居や堀跡が検出されることを想定していたが、これらの痕跡は発見されず、町屋裏手の空閑地に掘られた大小の土坑が検出された。特に直径約 3m の大規模な土坑からは、土器や陶磁器のほかの下駄や箸などの木製品が大量に出土している。</p>					

金沢市文化財紀要 3 2 9 『長町三丁目遺跡』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長町三丁目遺跡	城下町	江戸	土塀跡、井戸、土坑、溝、小穴	陶磁器類、土器、金属製品、瓦、石製品、ガラス製品	屋敷地を区画する土塀の痕跡を検出
要 約					
<p>金沢市教育委員会生涯学習課が施工する長土塀青少年交流センター建設工事に先立ち平成 29 年度に金沢市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した長町三丁目遺跡の発掘調査報告書。</p> <p>長町三丁目遺跡は、江戸時代においては金沢城下町西端の武家地の一角であって、調査区は竹田家及び山村家の屋敷地に該当する。明治維新後は宅地を経た後、金沢市立長土塀小学校の敷地となり、現在は長土塀青少年交流センターとして利用されている。</p> <p>発掘調査は長土塀青少年交流センター建設予定地のうち 405 m²を対象に実施した。検出された遺構には土塀跡、井戸跡、大小の土坑、溝跡、ピット等があり、藩政期の遺構が主体であって、それ以前の遺構は検出されていない。土塀跡は竹田家と山村家の敷地境に設置されていたもので、新旧 2 回の建て替えの痕跡が確認できる。</p>					

金沢市文化財紀要 330					
『大友 E 遺跡』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 E 遺跡	集落跡	弥生、古墳、平安	掘立柱建物、布柱建物、平地式建物、竪穴建物、土坑、井戸、溝、川	土器、陶磁器、石製品、木製品	古墳時代の鍬形石や平安時代の墨書土器などが出土
要 約					
<p>金沢外環状道路（木越福増線）築造工事に先立って平成 23～26 年度に発掘調査を実施した大友 E 遺跡の発掘調査報告書。本書では大友 E 遺跡の遺構・遺物について報告。遺構平面図及び自然化学分析は平成 30 年度に刊行済（金沢市文化財紀要 323）。</p> <p>大友 E 遺跡は弥生時代、古墳時代、平安時代の複合遺跡で、概要は以下のとおり。</p> <p>弥生時代：中期後半から終末期の溝や川跡から赤彩桶や弓などが出土</p> <p>古墳時代：鍬形石や管玉、白玉、棗玉などの装飾品類が出土</p> <p>平安時代：大型柱穴の特大建物跡が検出され、隣接する川跡からは大量の墨書土器や施釉陶器が出土しており、公的機関や荘園施設の可能性がある</p>					

金沢市文化財紀要 331					
『大友 A 遺跡・直江西遺跡』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 A 遺跡	集落跡	古墳平安	土坑、溝、川道路状遺構	土器、陶磁器、石製品、木製品	
<p>金沢外環状道路（木越福増線）築造工事に先立って平成 23・24 年度に発掘調査を実施した大友 A 遺跡の発掘調査報告。古墳時代前期の土坑や井戸状土坑、溝が検出されており、当該期の集落の一端の様相を示している。また、平安時代の併走溝が検出されており、道路遺構の可能性はある。ただし、地山面での検出であるため、路盤構造は不明。</p>					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
直江西遺跡	集落跡	弥生、古墳、鎌倉、室町	川、溝、方形周溝墓	土器、陶磁器、石製品、木製品、ガラス製品	弥生時代のガラス玉が出土
要 約					
<p>金沢外環状道路（木越福増線）築造工事に先立って平成 25 年度に発掘調査を実施した直江西遺跡の発掘調査報告。弥生時代の方形周溝墓の可能性のある溝状遺構からガラス玉が出土した。古墳時代の川からは前期の土器とともに大量の木製品が出土し、桶や槽を始めとした多様な製品が含まれる。古墳時代の川に重複して鎌倉・室町期の溝が検出されており、古銭などが出土した。</p>					

金沢市文化財紀要 333					
『金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）Ⅲ』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）	城下町	江戸	井戸、土坑、地下室、土取り穴、溝	中国磁器、国産陶磁器、土器、金属製品、木製品、瓦	江戸時代前期以降の武家屋敷に伴う土坑等の遺構群を確認
要 約					
<p>金沢市内水整備かが施工する準用河川源太郎川雨水貯留施設整備工事に先立ち平成 26 年度に金沢市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）の発掘調査報告書。</p> <p>金沢城下町遺跡は、金沢城を中心として形成された金沢城下町の中核範囲を対象に、平成 23 年 4 月 1 日に周知化された埋蔵文化財包蔵地である。飛梅町3番地点は金沢城から見て南東方向にあたり、調査地の北西部は加賀藩の執政役であった加賀八家のひとつ前田家（長種系）の下屋敷（陪臣屋敷）地、南東部は人持組大音家の下屋敷地であった。遺跡では、17 世紀前半からの遺物・遺構を確認した。古代～中世については遺物の散布がわずかに見られたが、明確な遺構は確認されなかった。</p>					

金沢市文化財紀要 334					
『市内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高柳遺跡	集落跡か	古墳	溝	土師器	
		平安	土坑、井戸、小穴	土師器、珠洲焼、柱根、木製品、石製品	
<p>道路工事中に見えられた遺跡である。調査区の北側に落ち込み及び自然河川があり、南側には古墳時代前期の溝と平安時代後期～中世の集落が展開する。</p>					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高柳町六字遺跡	集落跡か	弥生	鞍部か	土器	
要 約					
<p>個人住宅建設に伴う簡易調査。弥生時代後期～終末期の集落の鞍部にあたると思われる。</p>					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松村 A 遺跡	集落跡か	縄文 弥生	落ち込み 小穴 3 基、溝 6 条	縄文土器 弥生土器	
要 約					
宅地造成に伴う新設道路部分の発掘調査。縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代、古代、近世を内包する松村 A 遺跡の一部である。					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中遺跡	集落跡	弥生 奈良・平安	土坑、鞍部または 自然河道	弥生土器 土錘	
要 約					
介護施設建設に伴う建物基礎の一部と水槽設置箇所の簡易発掘調査。弥生時代後期から古墳時代初頭、及び奈良・平安時代の集落である畝田・寺中遺跡の一部。					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二口六丁 A 遺跡	集落跡か	弥生、古墳	小穴、土坑、溝	土師器、打製石斧	
要 約					
倉庫建設に伴う建物基礎の一部の簡易発掘調査。弥生時代後期から古墳時代前期の集落の一部と思われる。					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（兼六元町 7 番地点）	城下町	江戸	土坑	焼塩壺、陶磁器、水注	
要 約					
金沢市文化財紀要 312『金沢城下町遺跡（兼六元町 7 番地点）』（2018，金沢市）の補遺編。同書未報告分の遺物 7 点を掲載。					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中屋サワ遺跡	集落跡	縄文	川	縄文土器	
要 約					
金沢市文化財紀要 262『中屋サワ遺跡Ⅴ－縄文時代編－』（2010，金沢市）の補遺編。同書未報告分の遺物 1 点を掲載。					